

武蔵野市第六期長期計画策定委員会（第12回）

日 時：平成31年4月26日（金） 午後7時～午後9時10分

場 所：武蔵野市役所412会議室

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、久留委員、栗原委員、中村委員、保井委員、松田委員、笹井委員、恩田委員

欠席委員：岡部委員

1 開 会

2 議 事

（1）計画案（素案）について

企画調整課長が、配布資料、議事の進行に関する確認をした後、資料1「計画案（素案 ver.1）」に沿って説明した。

【委員長】 計画案（素案）について、気になったこと等をご発言いただきたい。

【A委員】 長期計画がいよいよ取りまとめのフェーズに入る。特に計画案の（3）「財政計画の概要」の①財政の現状と課題に関する数字のインパクトを委員の方々にも正しくご理解いただくために、「武蔵野市第六期長期計画案への提案と意見」としてまとめた。

冒頭、市職員の皆さんにお願いがある。皆さんは、市の各データを見ているし、政策にも精通している。これまでの意見交換等では、かなりの部分で誤解や間違った認識をされていることがあり、職員の方に確認すると、誤解であることがわかるデータが出てくる。職員の方たちは、昔の言葉で言うテクノクラート、いわゆる市政のスタビライザー、安定運営に対しての専門家であり、その専門知識の量は、分野によっては私よりも数段上だ。その方々には説明義務がある。相手が市民であろうと、市長であろうと、市議会の議員であろうと、説明義務を果たし、正々堂々と議論することを逃げないでいただきたい。ましてや市民より自分たちは下だとか、公僕とかいう概念は捨てていただきたい。武蔵野市は、市民自治を掲げ、市民の方の意識も高い。職員の皆さんには、そのパートナーでいていただきたい。したがって、私がこれから申し上げることにも誤解や間違いがあれば、遠慮なく指摘なり意見をいただきたい。

まず、資料1の12ページの①財政の現状と課題について、「人件費、扶助費、公債費」は用語解説でしっかりと解説していただきたい。

1段落目にある「全国の市との比較においても上位に位置している」はミスリードだ。ここは「全国780の市の中でも4位」として、それでも武蔵野市がトップレベルにあることが伝わりにくいようであれば、平均値を出す。市町村の財政力指数の平均値は0.5で、政令市においても、川崎市でようやく1を越し、横浜市等は1に満たない。その中で武蔵野市は1.4～1.5を誇る。

14ページ、②財政見直しにあるふるさと納税制度の部分は、ふるさと納税制度によるインパクト、費用便益分析的には誤っているというメッセージとして、「年間3.5億円程度と看過できないものとなっており、その対策が求められている」と、踏み込んで書く。

【B委員】 ふるさと納税制度による税収減は、今年は予算ベースで約7億円であり、去年は約5億円だった。

【A委員】 去年が5億円、今年7億円ということは把握していなかったのが訂正する。7億円の収入減があることを市民に伝える。

22ページ、7「重点施策」の(6)「市民自治のさらなる推進」には、ボランティア等に過度の負担が発生しており、市民全体で自治を支える仕組みの再構築を図っていくということを入れる。

「重点施策」に(8)として、行政改革による市職員の業務量の適正化と人的資源の投資を新規追加すべきだ。武蔵野市の市政運営もしくは市の施策の展開にはリスクが2つあると考えている。①市民のボランティアの疲弊による市民自治の崩壊と、②それを下支えする市職員の余りにも過大な業務量による市民ニーズの取りこぼしだ。ボランティアの方は書かれているが、市職員の業務量の適正化と人的資源の投資は計画案には書かれていない。これは、市側はなかなか書けないと思うので、市民がつくる長期計画にて重点施策として明記する必要がある。

24ページ以降は、様々なプロジェクトが列挙されているが、各種政策が輻輳して、市民にはわかりにくい。ここは記載に工夫が必要だ。

40ページ、文化・市民生活分野の基本施策7「まちの魅力を高め豊かな暮らしを支える産業の振興」の(1)「産業の振興」は、前段で産業振興を図ると高らかにうたっているが、後段がコンテンツ産業中心の記載になっている。今、地方公共団体の産業振興に関する取り組みは、テレワーク、シェアードオフィスの床をどう供給していくのかに軸足が移っている。これらが市職員の働き方改革という観点においても重要なインフラになることを書き込んではどうか。市長も、武蔵野市は食品加工業や飲食サービス業の本社が

集積していることを活用しない手はないと言っていた。これを今後の新しいテーマとして取り込んでいくべきだ。

都市基盤分野の基本施策6「活力とにぎわいのある駅周辺のまちづくり」の(1)「吉祥寺駅周辺」は、策定委員会で議論してコンセンサスを図る必要がある。今はトーンを平均的に書いているが、都市マーケティングの観点から、全国に地名度の高い吉祥寺を活用して、まちの魅力を向上させ、来街者の増加を図って、その波及効果を広く市全体に行き渡らせていくという2段階の展開経路を明記すべきだ。武蔵野市を支える市税の担税力と固定資産税の源泉は、吉祥寺周辺の高所得者層と、高い地価にある。10年前の武蔵野市は、これを明確に打ち出した都市政策を行っていた。まず吉祥寺の地価を上げることに重点投下して、そこで上がった税収を中央エリアと境エリアのインフラ整備に回した。これが、武蔵野市の今の財政力指数が1.5を誇り、かつこれだけの来街者数と全国知名度の高さの背景だ。このことはいま一度書くべきだ。

52 ページ、行・財政分野の基本施策1「市民参加と連携・協働の推進」の(2)「市民参加の充実と情報共有の推進」について。今回の市議会議員選も投票率が向上しなかったのは、この項に書かれたバリアフリー化や環境整備が不十分だったからだけではないのではないか。投票率向上には、若年層の地域政治への参加を通じたアイデンティティ、シビックプライドの醸成こそが本筋だ。例えば福井県鯖江市は、JK課をつくり、高校生の市行政に対するインボルブメントを行い、また、それを売りにして、新しいアイデアを吸収している。武蔵野市は、武蔵野プレイスのにぎわいを見ても、そういうことが十分できる。それが次の市長選や市議選の投票率を上げることにすぐつながるとは思わないが、10年先、20年先を考えると、これこそを、今、長期計画の軸として明確に示さなくてはならない。ご検討いただきたい。

54 ページ、基本施策4「社会の変化に対応していく行財政運営」の(2)「健全な財政運営を維持するための体制強化」について。今は財政状態に懸念はなくても、財政規律を守るための仕組みをつくっておく必要がある。健全な財政を維持するための体制を強化するには、今後大型投資が予測されること及び首都直下型の震災が起きたときの復興費用等予見できない支出ニーズを明確にする。公共施設等総合管理計画と、毎年見直しを図る財政計画に基づいて、年度の予算作成及び予算管理を通じて財政規律を維持していかなければ、政治的バイアスがかかって、仮に大型投資を強行に推進されたときに、とめることができない。とめることができずに、ハコモノ行政に陥り、財政破綻している事例は、日本において枚挙にいとまがない。したがって、この長期計画には、一定の根拠を持たせて、財政規律の仕組みを明記してい

くべきと考える。本来は、財政力指数 1.2～1.3 を1つの目安として運営していくというシーリングをはめていくべきだが、長期計画にそこまでの権限が本当に付与されているのかということがあるし、逆に硬直的な運用をされて、本当に必要なときに支出ができないということにもなるので、この取り扱いに関しては、策定委員の方々とも議論して、考えていく必要がある。

56 ページ、(7)「新たなニーズに応える組織のあり方検討」では、胸を張って、職員増も必要だと書くべきだ。皆さんは、職員の適正化計画で、血のにじむような努力をしながら職員定数を削減してきたが、一方で、市民ニーズが増加してきている中で業務を回せているのか。市職員は労働基準法の対象外にあるが、労働基準法が世の中一般に認められている労働環境を保護するための法律だと考えれば、市職員の労働環境は、違法ではないとはいえ、水準的にはやはりおかしい状態にある。そのためには定員増を明記してしかるべきで、財政力指数の高い武蔵野市にとっては必要な投資だ。

長期財政シミュレーションは、あくまでもシミュレーションだという書かれ方だが、もっとかみ砕いた文章が必要だ。今後 20 年間においては、学校の建てかえは基金の積立金があるので十分できるが、20 年後に市庁舎や総合体育館の建てかえ等々が始まったら、財政がもたなくなるということがわかるように書く。ただ、20 年後に本当に市庁舎が必要なのか、総合体育館が必要なのかは神のみぞ知る世界で、誰も予見できない。だから、20 年後は危ないというのは事実だが、心配してもしょうがないことを心配するよりは、足元をしっかりとやって、財政規律を維持する。一方で、公共施設の総量と整備水準を見直すことで、持続可能な財政運営をしていく。こういうメッセージが出されていれば、市民は安心して武蔵野市を選べる。

市職員の疲弊の対応策としては、残業時間の自主的な総量規制が必要だ。それが守れないのであれば、職員のマネジャー、具体的には部長の人事考課を下げるという、世間の会社では当たり前に行っていることを導入していくべきではないか。人事能力開発は、長期的な視野に立ってしていかなければいけない。それには、短期のマネジャーではなく、長期にコミットメントしているプロパー職員のトップが実質的にも掌握をするべきと考える。

私は市に人事部がなく驚いている。総務部の中に人事課があるが、この人事ラインで今の職員数を本当に管理できるのか。納得感のある人事考課はできているのか。納得感のためには、きめ細やかな面談をするほか、ウェブアンケートをとり、労働環境に対する不満や、やる気がどうしてなくなっているのか等をつぶさに見る必要がある。そのための体制ができているのか。人的資源の重要性を踏まえて、しかるべき積極的投資はしたほうがいい。それこそが市政の今後の発展にとってのインフラとなるべき1つの要素だとご

認識いただきたい。

【委員長】 この短時間にこれだけまとめていただいたことに驚いている。早速皆さんのご意見をいただきたい。

【C委員】 この計画案に市民活動支援をもう少し全域にわたる形で書けないか。一分野に入っている印象がある。求められているのは、どの領域にもかかわるという位置づけではないか。

この計画案は、これまで長期計画というものを読んだことのない人が読むことを前提としているとすると、わからないところが何点かある。

そのうちの1つが、財政シミュレーションだ。もし武蔵野市に財政的なゆとりがあるのなら、税金を下げてほしいと思うのが普通の市民感情ではないか。実際に、そう思っているという話もよく聞く。私は、小学校の建てかえのことなどを伺ったり、いただいた資料を読んだりして、知っているから財政シミュレーションに納得がいくし、現状の財政状況はとていいから、その中でいろいろ考えていくということも理解できるが、体系的な情報を何も持たない人は、シミュレーションでなぜ最後に急に財源が減るのか、わからないのではないか。高齢者が増えて扶助費が上がるというのはイメージできるとしても、急激に高齢者の方が増えるとも思えないし、武蔵野市に一体何が起こるのかと思うのではないか。例えば、今後30年の財政を考えた上で、この10年に予定される公共施設の建てかえの必要性を具体的に示されれば、理解できる。しかし、それがなければ「税金を下げて」と感じるのではないか。初めて読む人がどう読むかということは、難しいが考える必要があるし、考えていただきたい。

【D委員】 市民会議では、第五期長期計画・調整計画のときの財政シミュレーションをもとに、武蔵野市が将来的に借金財政になるというところをベースに考えていた。公共施設等総合管理計画では、施設整備基準の金額が1%変わるだけで何億円も変わるということも書かれていたので、この委員会が始まって間もないころ、私は、幾つかのシミュレーションが成り立つのではないかと発言した。今回、市民が見るのは、国民健康保険のことがまだ入れ込まれていない30年の見通しとして示されたこの表ということになると、武蔵野市の将来について、こんなにお金がなくなっていくなら、節約しなければいけないという雰囲気だけが醸成されるのではないか。そうすると、新しいことにチャレンジするとか、必要なところに職員を増やすということに取り組みないという話につながってしまうのではないか。こういう見通し

だけ示されるということは、将来に向けてどうなのか。そうではない未来もあるのではないか。

【E委員】 各パートで重複して書かれているところは整理が必要だ。

若年層からの地域政治への参加を通じた地域アイデンティティの醸成こそが本筋というのは、A委員の指摘のとおりだ。今般、選挙権年齢を18歳まで下げて、市議会議員選挙が行われたが、18歳の人たちがどれぐらい選挙に参加したのか。今回、選挙管理委員会だけヒアリングはしていないので、今ホームページを見たら、投票結果は男女別の数字のみが出ており、年齢階層ごとにどれぐらいの武蔵野市民が選挙に参画したかは出ていなかった。

同様に、どれぐらいの市民がボランティアとか市民活動に参画しているのかという数字も余り示されていない。市民の方々からは、頑張っている人たちの年齢が高齢化しているという話を聞くし、そこに危機感を持つ人たちもいる。市長と話をしたときも、どういう市を目指すのかと聞いたら、高い税金であっても、人口流入がある武蔵野市とのことだった。行政としての基盤は、他市町村に比べれば、将来的にも当分は安泰だが、その分、住民自治としての市民の意識の醸成が進んでいるかということ、そうだとする指標がなかなかない。それを1つ占う上でも、18歳の選挙の投票結果がどうだったのか知りたい。プレイスの地下階は活況を呈しており、非常に感心した。その活況が市民自治に向けられているのか、若者の自己実現だけにとどまっていないかは、少し見なければいけない。

財務に関する説明を聞いて感じたのは、第五期長期計画を見たときもそうだったのだが、財政の資料はデータが中心に出ているということだ。「見る、この武蔵野市の財政を」と、いわばドヤ顔のようにデータが出ている。他の分野は、健康・福祉分野で言えば、市内の特別養護老人ホームの数が具体的に出ているものの、概してイメージのいい写真が多い。データで見る財政は市民を安心させるが、長期計画全体で見ると、市民の方にわかりやすいエビデンスの出し方になっていない。第六期長期計画は、可視化して、市民にわかりやすくするということを前提にするのであれば、ページ数の問題もあるが、財政と同じレベルでデータが出せるかどうかは1つの視点になるのではないか。

【F委員】 皆さんの意見に共感してうなずくばかりだ。

市民会議から選出していただいてここに座る者としては、やはり読んでわかりやすくということをもットーにしてほしい。横文字言葉はなるべく使わず、お年を召した方にもわかりやすいように、日本語を勢いで横文字言葉に

置き換えてしまうことのないようにしてほしい。

重点施策に書かれていることが、後段の分野別のどの項目に相当するのかという説明があると、計画を手にした市民にわかりやすくなる。

【副委員長】 財政見通しの投資的経費について。これまでの計画では、幾つか山ができていて、それは学校の建てかえのたびに経費がかかるということだった。今回は非常になだらかで、2040年だけが突出した形になっている。これは、なぜなのか。建築費をなだらかにしているのか。今後改定する公共施設等総合管理計画がかかわっているのであれば、公共施設等総合管理計画等で費用がかさむ部分を明確にしたほうがいい。公共施設等総合管理計画に「財政規律」という言葉はないが、財政規律がなければ一気にハコモノ行政に向かうというA委員の懸念はよくわかる。そこは、長期計画だからこそ、しっかり書いていくべきではないか。

今回、22ページの7「重点施策」以降が新しくなっている。基本的な部分はずええずに、特徴的な部分を明確に見せたほうがいい。

例えば、(1)の「一人ひとりが尊重される地域共生社会の推進」では、外国人の話が入る。我々は何を共生として目指していくのかという点はしっかりと書いたほうがいい。

(2)の「子どもと子育てを応援するまちの実現」は、人権のことを書く。

(3)と(4)は、うまく接続していない感じがする。これはよくも悪くも武蔵野市全体の政策であり、計画なので、吉祥寺をフォーカスするとは言にくいところだ。しかし、現実はそうなっている。境エリア、中央エリアに住む人にとっては、あからさまに吉祥寺にフォーカスされることには複雑な思いがあるはずだ。武蔵野市をより広く売り込むというのであれば、(3)の武蔵野市を特徴づける都市文化の形成というのは、吉祥寺を特徴づける都市文化とは違うのではないか。

ボランティアの疲弊について。今、意識を高く持ってボランティア活動や市民社会活動に頑張る若い人は、地域ベースではなくて、もっと広いレベルで活躍している。私の知り合いは、病児保育で頑張っていて、グローバルにNPOを立ち上げて、ネットワークをつくっている。地域の問題解決というレベルから、社会全体の問題解決にかかわっている。これは、地域レベルで頑張る人材の流出とも言えるが、地域に関心を持っていないわけではない。今よりさらに広い視野に立っている。行動範囲や生活圏の縮小がある中で、次の高齢者になる方、あるいは今後も長く住む方々は、いずれ地域に戻ってくるという循環を考えたほうがいい。

武蔵野市民科の手引きを見ると、武蔵野市を売ることは書いていない。市

民性を涵養することを第一とする武蔵野市ということが感じられるものであれば、私はうれしい。市民性の涵養が最終的に武蔵野市につながるような訴え方、見せ方を意識することで、先ほどの市民活動の促進も、「とにかく武蔵野市の市民活動に参加してください」ではないものになる。まずいろいろな活動に参加し、最後にやっぱり帰ってこれる地域の雰囲気づくりをする。未来ある人々を支えていきつつ、ここが自分たちの帰る場所なんだということを見せられる形にすることで、若い人に届く。そのための居場所をつくり、いい経験をしてもらえる雰囲気をつくることには大賛成だ。

【委員長】 私も今の意見に賛成だ。私自身、ほかの自治体で仕事をしてきて、自分は何となくここで生きて死ぬんだと思ったときに、ここでもう少し活動しなければと思うようになった。今こうしていろいろ動いていることを考えると、囲い込むという発想自体が間違っている気がしてならない。ついこの住みかとはまでは言わないが、自分がどこで生きるかを真剣に思い、そこに活動しやすい環境をつくることこそが大事だ。

E委員の話にもあった市民ボランティアについても同感だ。どこで何をしている人たちなのかすらわからないし、その人たちがどのくらいいるのかも全くわからない。疲弊していると言われても、誰がどう疲弊しているのかわからない。地域で活動したいと思っている人たちは意外といる。でも、何かの原因になって疲弊している。人が足りないから増やすのではなくて、なぜそうなっているのかという原因を、言葉でもう少し出してもいいのではないか。

C委員の話にあった、市民活動を支援するという感じが全体に出て、それがボランティアにも入っていきやすい環境になり、最終的に地域に入っていくというルートは、この計画では見える形になっていないが、今からでは難しいのではないか。

根本的な話として、この計画は市民に読んでもらうものなのか。これを一番使うのは行政の人なのではないか。だから、行政の人がこれをわかっている方がいいのではないか。それ以上に、これで何をするとか、この長期計画でこう決まっているから、こう動いていくという、わかりやすい市民向けのものがあるほうがいいのではないか。だとすると、この計画は、どれだけわかりやすく書けばいいのか。専門用語全部に注をつけて、本文と一緒に見るものにするのかどうか気になっている。

【G委員】 市民との意見交換を経て、計画案には正しいことが書いてあるが、何か足りない。それをどう入れるのかを考えたときに、「変化すること

を恐れない」、「チャレンジする」という言葉が入っているといい。「市民自治」「協働」「市民参加」という、武蔵野市が大事にしてきた言葉が入っていることも大事だが、大事にし過ぎて守りに入る部分がある。できるだけ平等に、公平に、みんなで合意しながらやっていくということも大事にしつつ、新しい自治、チャレンジする人を応援する、あるいは市自体もチャレンジしていくというニュアンスが出ると、随分変わる。1 ページの基本目標の(3)「地域の絆を育む 市民自治のまちづくり」にも、新しい社会の課題に新しい手法で活動する人を応援する、市自身も違うやり方にチャレンジしていくということが入れられないか。

市政を取り巻く状況として、14～15 ページの「社会経済情勢等の変化」にあるような視点を入れると書かれているが、16 ページの「基本的な考え方」は、今までのやり方を大事にすると書いてあるように見える。どうもブツリ切れている感じがある。計画も、計画に基づく市政運営も、ある意味、変えながらやっていくとか、まちづくりは社会実験も重ねながら、社会情勢に合わせて変えることを恐れず検討しているということを入れてはどうか。

5 「基本的な考え方」の(4)「協働の原則」に新しいチャレンジをしていくという要素を入れるという考え方もある。社会の変化が激しい中で、15 ページにある文言を受けながら、「協働を進めていく」とするのもいい。

18 ページの「まちの活力の向上・魅力の発信」について。産業政策については、A 委員をはじめ以前から委員の意見が出されているが、市長も、コンテンツ産業を頑張るとのことだった。コンテンツ産業以上に大事なのが、生活先進都市の武蔵野市という視点だ。病児保育、不登校、地域共生社会の話は今までもたくさん出ているが、きちんと産業化していけるのは、消費力のある武蔵野市ならではだ。全部公共サービスでやらなくても、社会起業家たちが生活サポートの経済の新しいやり方に挑んでいる。ムーブスも、まさにそういうことだったのではないか。そういう新しい産業の提案のようなことが、コンテンツ産業に注力することよりも大事だ。それこそがチャレンジではないか。

22 ページの7 「重点施策」の(1)「一人ひとりが尊重される地域共生社会の推進」は、健康・福祉分野だけではなくて、都市づくりにも関連する。空き家の活用等、地域共生的な機能を上手に入れてはどうか。個別の施策が並んでも、表現の工夫で随分変わる。

(2) 長期計画のスローガンについて

企画調整課長が、資料 2-1 「第六期長期計画のスローガンについて」、

資料２－２「無作為抽出市民ワークショップで提案されたスローガンについて」及び５月の策定委員会日程について説明した。

【委員長】 この進め方について、意見があれば出していただきたい。

【D委員】 計画の全体とか武蔵野市のこれからについて、もう少し委員会で話し合って、それから次の段階に進むというわけにはいかないか。先にスローガンを考えるのではなくて、まずこの計画全体をどうしていくのかという議論を次回、次々回にした上で、その後で、そういう計画にするならスローガンはこうしてはどうかという順番になるのではないか。スローガンを考えるのは後でいいと思う。

【企画調整課長】 今日は、計画の全体についての委員の意見をいただき、「チャレンジ」というキーワードも出た。委員会としての議論を深めることは妨げないが、５月７日の作業部会は、今日説明した内容について、さらに細かいレベルも含めて各委員から追加の意見をいただき、残りあと２回の作業部会で、どうしても詰めていかななくてはいけない個別案件について議論する。全体の話も５月７日に行う。その後さらにスローガンをどうするかということにいくには時間的に不安が残る。

【委員長】 横並びの自治体の雰囲気になってきた武蔵野市に対して、もう少し挑戦的にやっという方向性を打ち出すことは共有されているのではないか。職員定数を増やすというのも、自治体の中では相当チャレンジングなことだ。市民自治も、まず基本原則を立てることで、そこからさらに進めていくような何かをもう少し表現することができるのではないか。最後に言葉に落とし込むのは相当大変なことになるが、並行して考えていくこととしたい。

【B委員】 以前、D委員が、17ページの基本目標、基本課題の表現や位置づけなど全体を通して見直す必要はないかと言っていたところはどう整理するのか。

今委員長が言った、チャレンジングで躍動感のあるところを出すとする、基本目標はかなり充実して、まちづくりという形で展開している。基本課題の「少子高齢社会への取り組み」以外の課題は、語尾が「発信」「整備」「再構築」「推進」だ。これを例えば「少子高齢化社会への挑戦」のような、前向きで躍動感のある表現にできないか。

22ページの7「重点施策」は、重点施策と後段の各分野の施策の体系に出されているところを整理する必要がある。「重点施策」の(3)の「豊か

な文化の発展と活力をもたらす産業の振興」は、40 ページの（1）に「産業の振興」として書かれているが、（2）の「農業の振興と農地の保全」に比べて薄い。第二期産業振興計画には、産業と福祉の連携、情報化社会や国際化に対応した産業振興、キャッシュレス化、I C 技術を導入する中小企業への融資制度の検討等がある。重点施策とうたう以上は、もう少し吟味して、チャレンジングな、今後 10 年間を見据えたものを書いてはどうか。

25 ページの（1）「市民の命と健康を守る病院機能の維持・充実」について。武蔵野赤十字病院の新棟建てかえに際し、武蔵野市民病院的機能の役割という形で協定を結び、市民優先の人間ドックであるとか、この圏域にはなかった PET/CT の導入、周産期医療の充実、産後の不安のある方の日赤病院での宿泊型のケア、産後鬱の方に対するケア等を行う。これは計画に書いたほうがいいのではないか。

56 ページは、武蔵野市の職員の名誉のために言うのだが、チャレンジングな職員も当然いる。今回の第六期長期計画の討議要綱に対する職員意見も、討議要綱をかなり読み込んでいるからこそそのものだ。それだけ職員は積極的な資質を持ち、優秀ということだ。仕事をしたくないので新規事業にチャレンジしないというわけではないとかたく信じている。

56 ページの人材育成の部分の書き方が平板だ。どういう人材を求めているのかわからない。どういう方向性の職員像が、この第六期長期計画を推進していくために必要なのか、もう少し議論したほうがいい。

【委員長】 1 つ気になっていることがある。今回の武蔵野市の長期計画は、来街者も相当意識しているが、来街者の安全については配慮されているのか。

市長ヒアリングで、建てかえの問題の際に、市長は、民間の耐震に関することは民間で独自にやってほしいと言っていた。計画案は、市民に対する防災や安全は書かれている。しかし、吉祥寺は大勢の来街者がある割に、南も北も耐震構造の危ない施設が多いと聞いている。飲食・娯楽をしているときに地震が起きて、被災する来街者はとても多いのではないか。そう考えると、実は吉祥寺は安心、安全に遊んでもらえるようになっていないのではないか。たまたま来た人ほど被害が深刻になる気がしてならない。

以上のようなこともあわせて、私も意見のペーパーをつくりたいと思っている。各委員も、連休のさなかで恐縮だが、意見をまとめたペーパーを作成し、提出してほしい。気になる部分を書き出していくことで、論点が集約されると思う。

【D 委員】 皆さんの意見は濃いので、読むのにも時間とエネルギーが要る。締め切りは 7 日より前に設定したほうがいい。

【委員長】 5月4日をめどに提出をお願いしたい。

【A委員】 武蔵野市の人材のイメージ、目指すべき人材像として、「人材育成基本方針」は非常によくできている。参考になるのではないか。

【委員長】 提供された資料も見つつ、意見をまとめていただきたい。

(3) その他

【財務部長】 作業の都合上、幾つか確認したい。

現在の財政状況は良好な状態であるということを誤解のないように、しっかり、わかりやすく伝える。

財政規律の部分の書き込みも、趣旨としては理解するが、「シーリング」については、キャップ制、枠配分等技術的なことを状況に合わせて使っている。記載は職員が調整する。

シミュレーションを数種類にするということについては、正直なところを言えば、実は難しい。100%外れると言っても過言ではないからだ。歳出はまだしも歳入は、30年でシミュレーションすると、簡単に何百億もずれる。例えば、平成30年度の税制改正では、地方消費税が約5億円削られた。30年では150億円になる。ふるさと納税も同様だ。1つ変わると大きく変わるので、上位、下位でシミュレーションすると、何百億円もの上位・下位ができてしまう。

ただ、財政シミュレーションをつくる意味はある。本市といえども、少子高齢化の影響など社会事情によって経常経費が増加する。投資的経費も、今は少な目だが、将来的に多くなる局面が来る。その場合に、どの時期にどんなインパクトがあるか、傾向をつかむことができる。施策で事例を出して、整備水準の節約で今後30年の投資的経費を計算した場合、どのくらい変わるとか、市が施策を1つ工夫するとうこうなるというものは示せる。

公共投資の波が緩くなっているというのは、副委員長の言うとおりで、これから学校の基本方針をつくるにあたり、60年ということが変わらないとすると、平成32年度から建てかえをしなければ間に合わないことになる。その際、同時に4校を工事するのは現実的に不可能なので、2~3校ずつやっていくことになるように波をならしている。

【A委員】 このシミュレーションで、財政力指数の試算値を別軸で置くわけにはいかないか。市長は、お金はなくても学校はつくると言っていて、私は内心驚いたのだが、投資的な支出はコントロールできるので、財政破綻シナリオには至らない。従って、シミュレーションの各年における財政力指数の試算値を長期で書ければ、投資的支出による影響から切り離され、ニュートラ

ルな状態で数字を追えるのではないか。

【財務部長】 財政力指数は、市の歳出とは関係なく、一般的な行政水準の歳出に関して、市の税収による一定の率で見ると。数字自体も大きくは動かないが、制度に沿って調整する。入れるものについても、トップランナー方式でかけられている。もとをたどるとブラックボックスの部分があるので難しい。

【委員長】 武蔵野市は税金が高いというのは間違っていると思う。地方税、住民税の税率は一律で、武蔵野市民の所得が高いだけだ。あと、地価が高いため、固定資産税が高い。その説明がどこかにあったほうがいい。私も、ある時点まで武蔵野市にだけ高い税率がかけられていると誤解していた。決してそうではないということ、担税力のところに書くのか、これだけの税金を払える人たちが住んでいるという書き方にするのかはまだわからないが、誤解のないようにしたほうがいい。

【A委員】 武蔵野市の職員の人件費は、単価が高いと誤解している人がいる。武蔵野市の1人当たり人件費が高いのは、それだけ働いて、残業代がかさんでいるからだ。正当な対価だということは、どこかに書こう。

【C委員】 そのとおりだが、一方で、でも、市にお金があるなら、自分たちの税金を下げてほしいというのが一般的で、自然な考え方だ。

【委員長】 その人たちにも満足してもらえようサービスをしなればいけない。サービスの質が高く、あなたたちの将来はこういうところで保障されているというアピールもする。ふるさと納税よりも、行政サービスの質の高さを強調する。子育ての分野で国より進んでいることをやっているというのは、関係ある人しか知らない。私自身、所得が高いわけではないが、税金は高いと思う。それでも別にいいと思える説明なり書き方を。何に自分たちの税金が使われていて、どういうところを誇りに思えるか。それをどう書けばいいかということについて、みんなで考えよう。

委員長の終了宣言により、第12回武蔵野市第六期長期計画策定委員会を閉じた。

以 上